



成人力とICTを活用した情報活用能力

名古屋市情報教育研究会会長
目次 清和（若水中）

「国際成人力調査」(PIAAC)と呼ばれる調査をご存じですか。これは「経済協力開発機構(OECD)」が行おうとしている国際比較調査で、各国の成人が日常生活や職場で必要とされる技能がどの程度備わっているかを調べようというものです。話題となった「生徒の学習到達度調査」いわゆる「PISA」の大人版で、日本を含む27か国がこの調査に参加し、日本では、この5月から7月にかけて予備調査が進められ、国内に居住する16歳から65歳の6000人が参加することとなっています。

調査は、読解力、数的思考力、ICTを活用した問題解決能力の3分野で、日常生活の様々な場面で文章や図などの形で提供された情報を理解し、課題の解決に活用する力がどの程度備わっているかを測定します。

さて、ICTを活用した問題解決能力とは具体的にどんな問題で測定するのでしょうか。探してみると次のような例示がありました。

- ・ 指定された条件を満たす商品をインターネットで購入する。
- ・ 複数の人のスケジュールを調整したうえで、インターネットでイベントのチケットを予約する。
- ・ 表計算ソフトで作成された名簿を用いて、条件を満たす人のリストを作成したうえで、そのリストをメールで送信する。

さらに、読解力や数的思考力調査で情報活用能力に関連すると予想される問題には、次のようなものもありました。

- ・ 図書館の蔵書検索システムを使って、指定された条件に合う本を選ぶ。
- ・ 商品の生産量についての表をグラフにする。

調査は、調査専用のソフトがインストールされた調査員が持参するパソコンで行うので、ソフトを操作する力に左右されることはないそうです。

今後、名古屋市情報教育研究会で進めている「情報活用能力を育てるICT活用」にこれらの調査結果を生かしつつ、社会の一員として必要とされる成人力の育成にもつなげていけるようにしていきたいと考えています。

今後とも本研究会への変わらぬご理解、ご協力をお願いいたします。

平成22年度 名古屋市情報教育研究会 研究主題

「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」 —情報活用能力を育てるICT活用を通して—

研究副部長 福井 一道 (岩塚小)

「わかる授業」を目指して

「雲が動いている様子を見て、天気の変化がよくわかったよ」これは、授業後の子どもの感想です。

子どもが「わかった」「できた」と実感できる授業は、教師による様々な工夫が仕掛けられた授業であると考えます。その仕掛けの一つとして、右の写真のように、授業でのICT活用が挙げられます。

本年度は、各教科・領域の学習指導の中で、ICT活用に重点を置いた研究を進め、子どもたちの情報活用能力の育成に迫りたいと考えます。

本研究会の実践研究部とカリキュラム研究部が中心となり、教師のICT活用指導力を高める実践研究を進めていきます。



教師が雲の衛星画像を見せながら説明している場面

授業でのICT活用

ICT環境の整備が進み、各学校にノート型コンピュータやプロジェクタ、大型ディスプレイ、電子黒板などが導入されてきました。

本年度の実践研究部では、教師のICT活用、子どものICT活用、情報モラルの向上について研究を進めます。教師のICT活用指導力を高める実践研究を通して、子どもの情報活用能力の育成について追究します。

カリキュラムの整備・充実

研究主題である「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」は、平成19年度から継続して、4年目になります。

そこで、本年度のカリキュラム研究部では、これまでに取り組んだ実践を、情報活用能力を育てるカリキュラム表に位置付け、整備・充実させます。そして、各学校でも手軽に授業で取り組んでいただけるように紹介します。



各研究部の活動の様子や情報教育に関する新しい情報は、名古屋市情報教育研究会のホームページでも発信しています。一度、ご覧いただければ幸いです。

アドレスは、<http://www.meijoken.com>

検索サイトで次のようなキーワードで検索してもご覧いただけます

名情研

検索